

# 社会科の窓 VOL 14

令和4年3月8日  
京都市立稻荷小学校 校長 吉山 茂樹

## ～豊かな自然を生かす宮津市（4年）～PART 1～



現行の学習指導要領から、「天橋立」がある宮津市を取り上げることになりました。  
「県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解できるようにする。」

日本三景の一つで、多くの観光客が集まる、天橋立について学習を進めていきます。本時の前には、どんな人がどのようにして美しい天橋立を守っていったのか調べて、まとめていきました。



美しい天橋立が、40年ほど前に、砂浜が細くなり、多くの松の木の根が表面に現れるようになったんだ！

問題意識を  
↓  
学習問題に

どのようにして、美しい天橋立をまもっていったのだろうか。



子どもたちは、本市の副読本、天橋立副読本「天橋立学ぶっく」、GIGA 端末を使って、誰がどのようにして美しい天橋立を守っていったのか調べていきました。

- ・京都府の港湾局が「サンドバイパス工法」という方法で、砂浜の保全を行った。
- ・土木事務所の人が松をかけさせるマツノマダラカミキリムシを駆除するため、消毒を行った。
- ・ボランティアの人の活躍もあったんだ。



このようにたくさんの人の努力や苦労のおかげで、現在の美しい天橋立があることを再認識しました。

ところが・・・・

新型コロナウィルスの影響で、天橋立の観光客が激減してしまいます。最高年間300万人の観光客が100万人以上も減ったそうです。そうです。今の稻荷地域と同じなのです。そこで、本時では新型コロナウィルスで減ってしまった観光客をどうして呼び戻し、観光を盛り上げようとしたのか、最後の1時間を研究授業として、取り上げました。つまり、社会や天橋立の現状をつかみ、どのようにして解決していくのか未来思考型の展開を考えました。

さらに、しっかり1時間話し合い活動をして、社会科でねらう比較・関連・総合する力の育成を目指すため、前時のうちに学習問題に対する自分の考えをノートに書いておき、本時では話しい活動から始めました。

＜自分の考えをノートに書いている子どもたち＞



＜天橋立豆知識＞

もうご存知の先生方も多いと思いますが、天橋立は北側から見る風景と南側から見る風景はかなり違います。

